

令和 7 年度
「県南地域づくりキャンパス事業」報告

神奈川大学 建築学部 曾我部研究室

2026 03.13

報告者：神奈川大学建築学部 曾我部研究室 助手 秋山晃士

目次

1. 事業目的と参加実績	2
2. フィールドワーク・実施報告	3
「美波町門前町再生交流オフィス」の照明展示会 / ウミガメマップ / ひわさの市	
2-1 照明展示会	
概要	4
照明器具のリサーチ	5
プレ展示会の実施	7
展示計画	9
本展示会の実施	10
アンケート調査	13
2-2 ウミガメマップ	
概要	15
成果物	16
2-3 ひわさの市	
概要	17
第1回目の様子	19
第2回目の様子	20
第3回目の様子	21
3. 事業目的の達成状況	22
4. 学生の意見調査	23

1. 事業目的

今年度、日和佐地区では、うみがめ博物館カッタのリニューアルオープン、日和佐港にぎわいづくり協議会による「ひわさの市」の開催など、新たな種々の活動が立ち上がっている。加えて、民間による新規店舗の出店などもあるものの、それぞれが独立しており、相乗効果が得られていない事が課題である。既存の地域の拠点や活動を有機的に関連付け、相乗効果につなげることが目的である。活動の厚みが増し、対外的な存在感を強めることになり、ひいては関係人口の拡大にも繋がる。

参加実績

フィールドワーク実施期間：2025 年 11 月 4 日～ 2026 年 2 月 23 日

参加者延べ人数

学生：194 人

学生以外（地域住民等）：101 人

2. フィールドワーク・実施報告

2-1 照明展示会

〔概要〕

旧清水家住宅において照明計画検討を行った。建物内に残っていたものや、美波町にゆかりのある素材を使って照明を制作した。日和佐の雰囲気合う、あたたかく落ち着いた照明展示を目指した。

展示場所は、建物全体を使い清水家住宅の空間に応じた照明計画を行った。1月11日には、本展覧会に向けての実験的なプレ展覧会を行った。調整内容をもとに、2月22日・23日に本展覧会を実施した。期間中には合計で70人以上の来場があった。来場者にはアンケートに協力していただき、本展覧会でを行った照明計画の感想や町内の景観形成において寄与できる場所がないかヒアリングを行った。



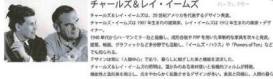
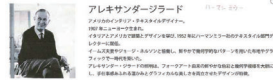
[照明器具のリサーチ]

照明計画を考えるうえで、明るさや光の広がり方、器具のデザインについて知見を深めるため照明デザイナーが手掛けた照明器具のリサーチを行った。

【照明デザイナーの分類】

アメリカ文化

ハーマンミラー



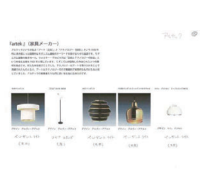
ヨーロッパラテン系

フロス、NEMO



北欧系

レ・クリント、ルイス・ポールセン、フリッツ・ハンセン、アルテック



独立系

YAMAGIWA



現代系

トム・ディクソン、フォスカリーニ、YAMAGIWA、アルテミデ



『Vitra』(家具メーカー)

Vitra



1950年にスイスのヴァイルムラインに創業した家具メーカー。創業者はウィリー・フェルバウムとエリカ・フェルバウムの2人。

ミッドセンチュリーなど真ん中に誕生し、半世紀以上の歴史を持つ。ホーム・オフィス・公共施設など多岐に渡る文化活動は単なる家具ブランドという領域を超えた。まさに一つのプロジェクト、ヴィトラはデザインを通して、『私たちの日々の生活をより豊かなものにする』を目標に、今この瞬間もその活動を広げている。



Pette Potence



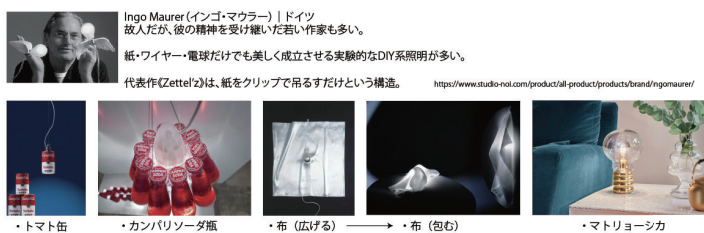
Lampe de Bureau



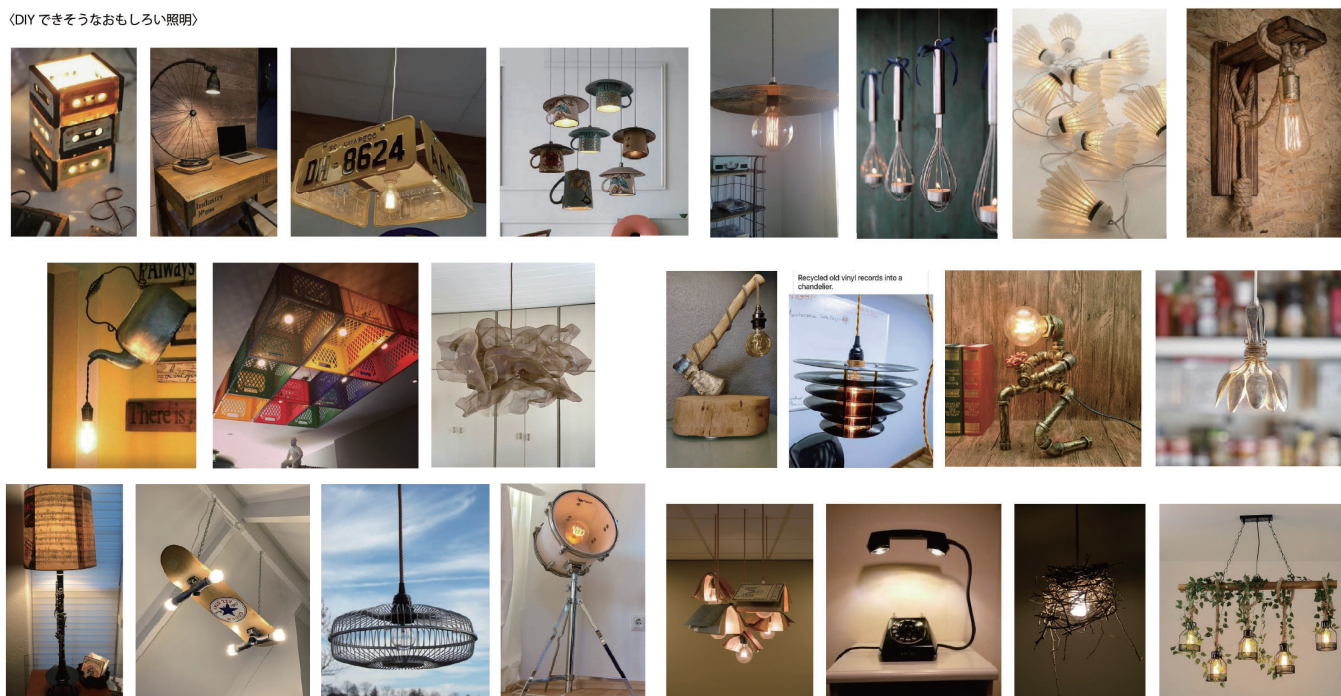
Abat-Jour Conique

【DIY照明のリサーチ】

器具を自分たちで制作できる方法についてリサーチを行った。



〈DIY できそうなおもしろい照明〉



【照度の検討】

制作した照明器具が、室内の中で適切な照度を確保できているか照度計を用いて確認を行った。



プレ展示の実施（2026.1.11）

灯里 - 暮らしの記憶 -

清水邸を改修し、より暮らしやすい住まいにするため照明の計画を行っています。
この古民家に合う照明は何かを考え、清水さんの残っていた品物や、街にあった廃材、身近な素材を使って照明をつくりました。
日和佐の風景や雰囲気にも合う、あたたかく落ち着いた照明を目指しています。

日程：2026.1.11 (sat) プレ展示会
2026.2 月中旬予定 本展示会
会場：美波町門前町再生交流オフィス 1 階
時間：10：00 ～ 17：00 ・入場無料



〒779-2305 徳島県海部郡美波町奥河内寺前 2 2 8

【プレ展示会の様子】

プレ展示会には 14 名の方々が来場された。



1F 土間から全体を見る



1F 土間から全体を見る



会期中の様子 (1)



会期中の様子 (2)



会期中の様子 (3)



プレ展示終了後の再調整の様子

プレ展示会で得た経験を踏まえ最終的な照明器具の設置場所や数量の調整を行った。



本展示の実施（2026.2.22～23）

灯里展

日程 | 2026. 2月22日(日)・23日(祝・月)

会場 | 美波町門前町再生交流オフィス(旧清水家住宅)

時間 | 10:00～17:00 入場無料

旧清水家住宅の照明計画を検討しています。
建物内に残っていたものや、美波町にゆかり
のある素材を使って照明をつくりました。
日和佐の雰囲気合う、あたたかく落ち着いた
照明を目指しています。



〒779-2305 徳島県海部郡美波町奥河内寺前 228

神奈川大学建築学部建築学科

本研究及び活動費用の一部は、「みなみ阿波」
若者創生協議会の事業負担金によるものです。

【本展示会の様子】

2日間の会期では延べ50名以上の方々が県内外より来場した。



暗幕の設置



展示1階和室（新棟側）



展示1階和室（旧棟側）



アンケート記載の様子



展示会の様子 1階土間



展示会の様子 2階ラウンジ（旧棟側）



展示会の様子 2階ラウンジ（新棟側）



展示会の様子 2階離れ（新棟側）

【照明器具一覧】

1 透ける時間



2 美波町の漁網



3 夜の膜



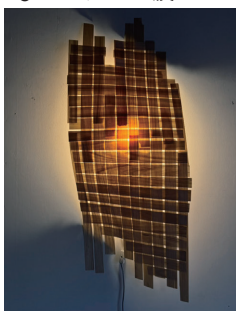
4 こみんかのらんたん



5 かさなる明かり



6 ミナミの波



7 折り紙



8 開ける扉



9 農家の灯



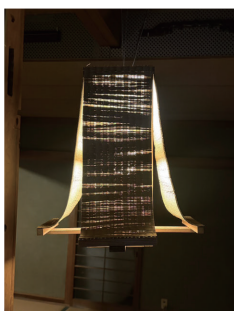
10 湯呑灯籠



11 格子のあいだ



12 床の記憶



13 亀甲の行籠



14 漁のかたち



15 亀照明



16 クラゲの発光



17 DNA



18 光と物語の融合



19 稲架掛け



20 貝殻拾い



21 影を楽しむ



灯里展 来場者アンケート

2026 / 2 / 22(日)・23(月)

本日は、ご来場いただき誠にありがとうございます。
よろしければ、以下のアンケートにご協力お願いいたします。

ご来場者様について

性別	☐ 男性 ☐ 女性 ☐ 無回答
年齢	☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代以上
お住いの地域	☐ 美波町内 ☐ 徳島県内 ☐ 四国内 ☐ その他の地域 ()

展覧会について

1. ご来場のきっかけ

☐ ポスター ☐ 知人 ☐ 通りがかって ☐ その他 ()

2. ご来場いただいたお連れ様

☐ 一人で来た ☐ 友人 ☐ 配偶者 ☐ 親子 ☐ 祖父母 ☐ 知人 ☐ その他 ()

3. 展覧会の内容について

☐ とても良い ☐ 良い ☐ 普通 ☐ やや悪い ☐ 悪い ☐ その他 ()

4. 気に入った照明があればタイトル横に記載された数字を選んでください（複数選択可）

☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 6 ☐ 7 ☐ 8 ☐ 9 ☐ 10 ☐ 11 ☐ 12 ☐ 13 ☐ 14
☐ 15 ☐ 16 ☐ 17 ☐ 18 ☐ 19 ☐ 20 ☐ 21

5. (4) で選んだ理由を教えてください

6. 町内で暗くて見えづらいなど、困っているところはありますか

7. その他、ご意見や感想がございましたらご自由にお書きください

ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙

展覧会アンケート

展覧会の来場者に対し、満足度や意見を把握し、展示内容の改善点や次回以降の展覧会の参考資料とするためアンケートを実施。展覧会に対する来場者の評価を分析する。

2026年2月22日・23日の2日間で開催した展覧会には、合計で50名の方が来場された。来場者の声を集めたアンケートから、今後の活動に活かせる貴重な意見や感想が得られた。

アンケートの内容

(ご来場者様について)

- ・2日間の展覧会には、合計30名のアンケート回答があった。
- ・男性12名、女性18名で、特に30代から50代以上の方々が中心となり、来場者の約4割が美波町内、約5割が徳島県内、残りの1割は他県からの来場も見られた。
- ・最も多い来場のきっかけは「通りがかり」で、全体の9割を占めた。その他には「お店のチラシ」などが見られた。

(展示内容について)

- ・「とても良い」と評価した回答が8割を占めた。
- ・来場者が印象深かった照明作品として、①の透ける時間・⑬の亀甲の行籠・⑰のDNAなどが注目された。

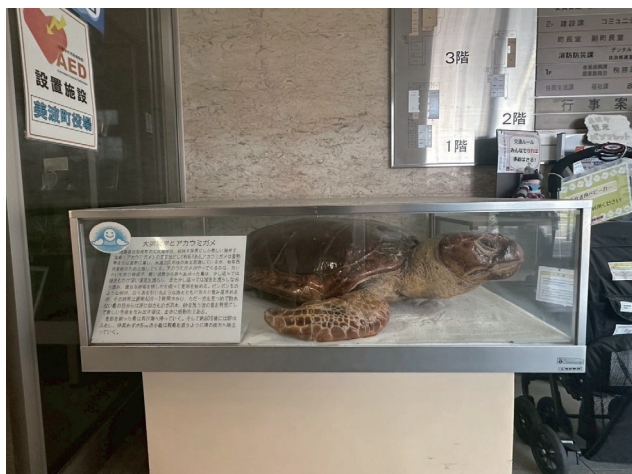
(意見について)

- ・来場者からは、照明展示について多くの感想が寄せられた。「美波町のものをモチーフにした照明展示は面白い」「素敵なイベントに立ち寄れて良かったです」「幻想的で良かった」などに対して「キャプションが見づらかった」「照明展示に関してより適したものがあったと思う」など次回の展示会での改善点が伺えたアンケートとも見られた。

2-2 うみがめマップ

〔概要〕

美波町内には至る所にうみがめをモチーフとした壁画アートやグッズ等がある。
町内に訪れた観光客に向けて、「うみがめポイント」をプロットしたマップを作ることで、地域のイメージ発信とともに各スポットを巡るきっかけを作ることを目的とする。



街歩きにて発見したうみがめの像



街歩きにて発見したうみがめアート1



街歩きにて発見したうみがめアート2



街歩きにて発見したうみがめアート3



うみがめマップの検討様子1

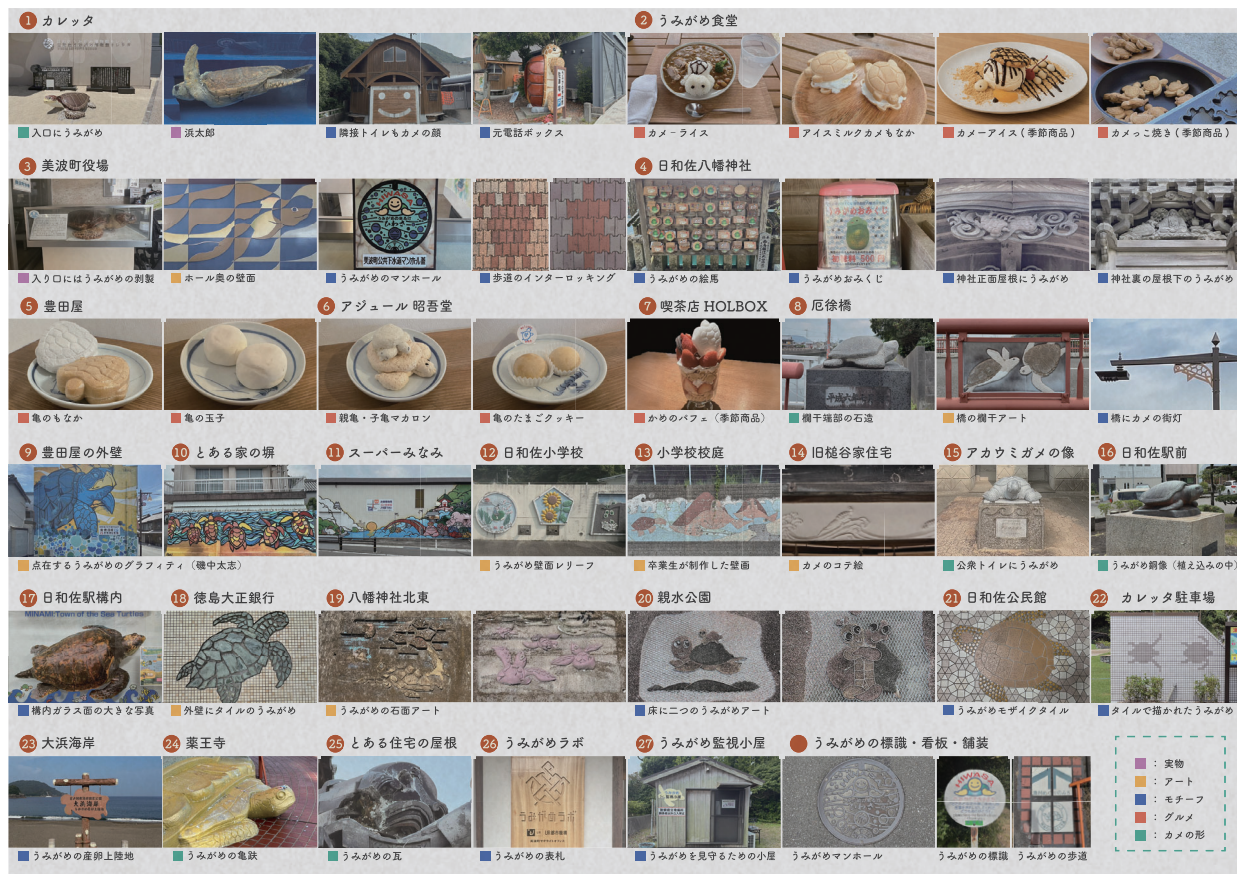


うみがめマップの検討様子2

うみがめマップ



オモテ



ウラ

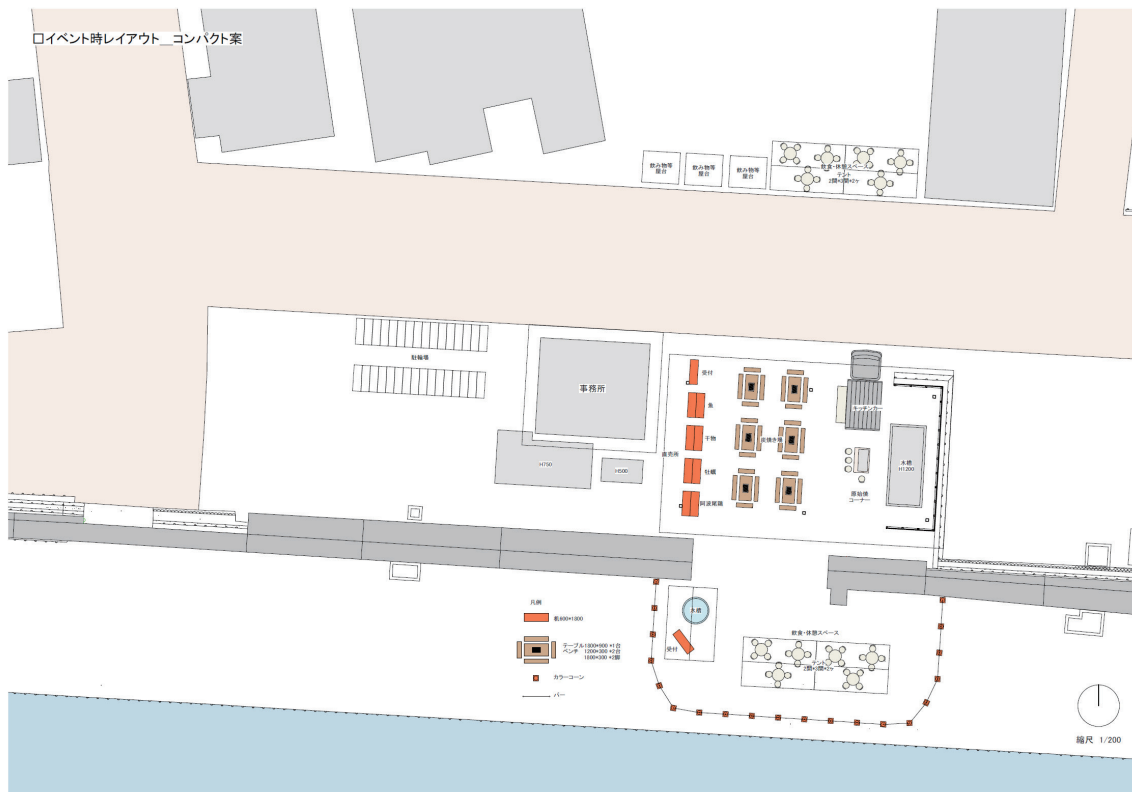
2-3 ひわさの市

〔概要〕

日和佐港にぎわいづくり協議会による「ひわさの市」開催に合わせて、イベント時の会場のレイアウト、什器の検討・制作を行った。また、今年度は3回にわたりイベントの準備や当日の受付、出展者のサポートを行った。



[レイアウト検討]

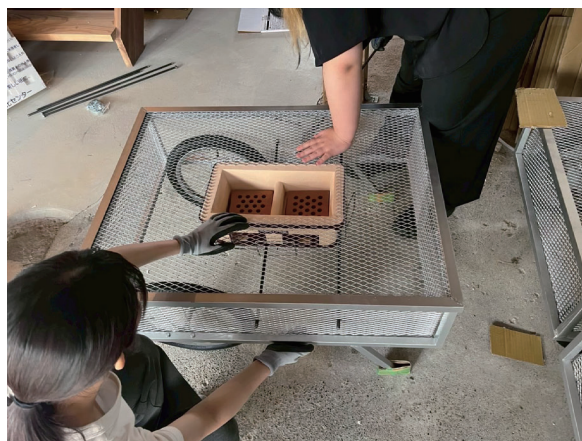


イベント時レイアウト-コンパクト案

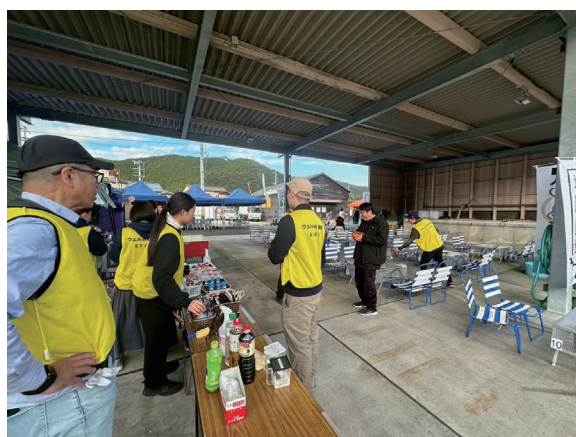


イベント時レイアウト-歩行者天国案

第1回ひわさの市の様子



第2回ひわさの市



第3回ひわさの市



3. 事業目的の達成状況

本事業では、うみがめ博物館カレッタのリニューアルオープン、日和佐港にぎわいづくり協議会による「ひわさの市」の開催など、新たな種々の活動が立ち上がるなか、既存の地域の拠点や活動を有機的に関連付け、相乗効果につなげることが目的である。

今年度は街歩きを行い、町内に点在する「うみがめポイント」を収集した『うみがめマップ』を作成した。『うみがめマップ』は、ひわさの市の駐車案内時に配布することで、地図としての案内の役割に加え、来場者に町内の魅力ポイントを共有することができた。

また、昨年度行なった古民家改修施設において、今年度も新たな展示企画として「灯里展」を行なった。展覧会中は、学生たちが各々制作した作品を通して、地域内外の来場者と交流するきっかけをつくることができた。

4. 学生の意見調査

スキーム1（別紙）の設問を元に、フィールドワーク参加者の学生にアンケートを行った。

回答者数は、16名

アンケート設問別結果

設問1：フィールドワークより前に徳島南部地域を訪れた経験について

地域訪問経験なし：62% 訪問経験あり：38%

設問2：今後のフィールドワーク参加意欲について

94%以上の回答者が「参加したい」または「かなり参加したい」と回答。

設問3：学業外での地域訪問意欲について

個人で訪れたい：94% あまり訪れたくない：6%

設問4：地域への愛着度

15人の学生が「愛着が湧いた」または「かなり湧いた」と回答

※ 昨年度（2024年度）以前のフィールドワークに参加した学生のための質問

回答者数は、12名

設問5：フィールドワーク後の参加

再度参加した：44%

参加していない：31%

設問6：学業外での訪問または関与

学業外で訪問または関与した：7%

訪れても関与もしていない：60%